



写真1 スパン表冊子(スギ普及版、ヒノキ旧版、デジタル版)

●はじめに
これまで岐阜県木材協同組合連合会を事業主体とし、岐阜県産スギ横架材スパン表(2009年)および岐阜県産ヒノキ横架材スパン表(2011年)を作成しました(写真1)。当時、スギを横架材として使うことをタブー視している設計者や工務店が大多数であった

岐阜県産ヒノキ横架材デジタルスパン表の展開

DXへ向けて、まずは紙版からの Digitization

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ●小原 勝彦

中、普及版のスギ横架材スパン表により、横架材としてスギ材が利用される機会が拡大しました。また、ヒノキ横架材スパン表は2000頁に及んだため、普及版を作成することができずにいました。

そこで、令和3年度に岐阜県東濃松品質管理センターを事業主体とし、岐阜県産ヒノキ横架材スパン表の普及版として「横架材デジタルスパン表(横架材断面検討シート)」を作成しました。

●デジタルスパン表の特徴

従来型の横架材スパン表では、非常に限られた仕様や荷重条件であり、非常に限られた架構形状(特に横架材長さや荷重負担幅)における一覧表形式となっております。

これに対して、デジタルスパン表では、架構形状(単純梁、跳出梁)の制限はありますが、ほぼ自由な仕様および荷重条件での横架材のチェックが可能です。耐風梁の簡易チェックやH12建

告第1459号第1の必要梁せいのチェック、グレーの本の梁上耐力壁の必要梁せいのチェックについても、参考値として結果表示しています。デジタルスパン表は非常に自由度が高く、汎用性の高いものとなっております。

デジタルスパン表について、岐阜県都市建設部 建築指導課、岐阜県・愛知県の民間確認審査機関、岐阜県建築士会、県内の意匠設計者・構造設計者・建材業者などに事前説明し、御助言をいただきました。将来的に建築確認審査で利用できるといい、構造設計の事前に横架材断面のあたりをつける際に利用したい、県産材を販売する際のPRポイントとしたい、英語版や韓国語版などに対応すると海外への県産材輸出促進にも繋がるなど、利用に関する期待度が非常に高いことが分かりました。

●今後の展開

法的なところで、構造計算を要しな

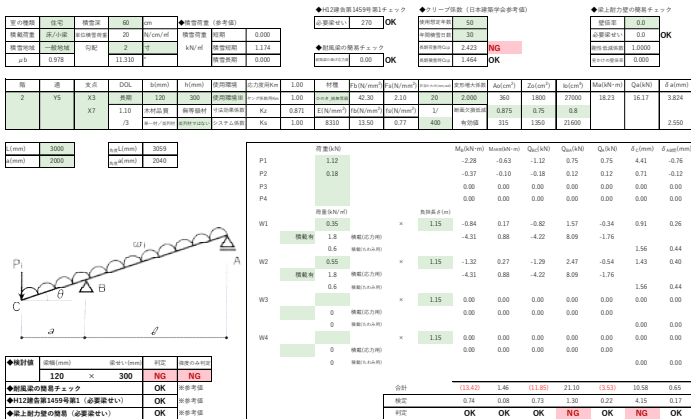


図1 デジタルスパン表

小規模木造建築物(いわゆる4号建築物)の適用範囲を縮小したり、建築確認審査省略の範囲を縮小したりするような方向性が示されています。今後、構造的根拠を示さなければならぬ木造建築が増えると考えられます。岐阜県東濃松品質管理センターではデジタルスパン表の利用講習会なども計画されているようです。さらに使い勝手がよくなるように「Webスパン表」への改編も考えられています。このようなデジタルスパン表など最新技術を使うことができる人材育成をアカデミーが担っていきたくと考えています。